

皆さんこんにちは。先日は念願の野本亀久雄先生の講演会に参加してきました！

野本先生とは

チクゴ株クロレラ503の生みの親です！
今は88歳で、あと10年は元気に生きると言われていました。九州大学の教授で、今は退職されて、九州大学生体防御医学研究所の所長です。元日本移植学会理事長もされていました。病気にかかりにくい、病気をはねのける体になる、「免疫力」の本も執筆されています。

元は外科医で、がんの手術や抗がん剤や放射線治療を行ってきました。しかし、どんどん人が死んでいく。助けられない方が増えていくのは辛い。何とか助ける方法は無いものかと、いろいろ研究に研究を重ねられました。



マウスなどの実験で、クロレラエキス（503、BCEx）をしっかりと身体に取り込むことによって、体が変わってくる。37兆のおかしくなった細胞が、元に修復されることなども発見されました。また、修復できない細胞は、アポトーシスと言って自爆するように働きます。筑後株クロレラエキス（503、BCEx）には、このような素晴らしい働きがあります。

なぜクロレラにはこのような働きがあるのでしょうか？

それは、何億年も間、姿を変えずに生きてきたことが証明されています。例えば、大型恐竜など長い年月の過程で絶滅しています。しかし、クロレラは湖や淡水に住む緑の緑藻です。直径3から8μmの小さな球体で、変化しにくいのです。そして光合成で太陽のエネルギーをしっかりと浴びています。

クロレラの必要性

魚やプランクトンの餌として食べられています。現代では、マグロや鮎などの養殖魚の餌としても使われています。近畿大学のクロマグロの養殖にも使われています。クロレラを餌に使うと、高額ですが、抗生物質を使わなくても病気にかかりにくい。また養殖の魚も臭みがなく、天然に近いおいしい味が出るそうです。



クロレラと一口に言っても、何種類も約200種類ほどあります

一般的なクロレラは、ビタミン、ミネラル、植物タンパク、葉緑素が備わっています。しかし、細胞壁が厚く、破碎しなければ吸収されにくい。それに比べて、筑後株クロレラは細胞壁が薄く、破碎しなくても、吸収されやすい。葉緑素もa bの2種類があります。

最大の特徴は、外の周りにクロレラエキス BCEx で包まれていることです。（生体防御に役立っています）

クロレラエキス BCEx、脅威の働き！

人間の細胞は24時間で2分裂です。しかしクロレラエキス BCExは、20時間で4分裂します！人間の倍のスピードで細胞を修復します。細胞が修復されれば、臓器も修復され、健康な体に！

